

令和 4 年度

事業所名： グループホーム やまぼうし桜台

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100261		
法人名	一般社団法人米内地域支援プラザ		
事業所名	グループホーム やまぼうし桜台		
所在地	〒020-0002 盛岡市桜台二丁目18-3		
自己評価作成日	令和4年10月13日	評価結果市町村受理日	令和5年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①整理・整頓・清掃 ②利用者に寄り添った介護 ③協力病院や訪問看護と連携した24時間の医療体制 ④畑作業を取り入れた季節を感じられる生活</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあり、中学校や児童センターに隣接し、同一敷地内には同法人のデイサービスや有料老人ホーム等がある。事業所は2階にあり、1階には現在は休止しているが、家族や地域住民も利用できる喫茶コーナーがある。また、災害時避難先として地域住民を受け入れることとしており地域の福祉拠点となっている。法人が所有する「やまぼうし農園」は利用者が自然に触れ合い収穫の喜びを体験することができる等生活に大きな潤いを与えている。また、やまぼうし通信を定期的に発行し関係機関や地域に配布するとともに、定期的にホームページを更新する等情報発信に積極的に取り組んでいる。さらに、利用者個々の日常の様子をカラー写真で示すとともにコメントを加えて家族に送付する等きめ細かな取り組みをおこなっている。医師はじめ医療関係者との連携のもと、利用者の健康管理に努めている。法人の社是である、「整理・整頓・清掃」を心がけ、清潔感あふれる環境の中、利用者一人一人に寄り添った介護を心掛けている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	整理・整頓・清掃を基本とし、清潔感ある施設を目指し、利用者に寄り添った支援を行う。	社是である「整理・整頓・清掃」を理念とし、毎朝の朝礼などで確認している。環境を整えることにより、職員も精神的に安定し、その結果、ゆとりをもって介護を行うことができると考えている。利用者が心穏やかにその人らしくゆったりとした気持ちで安心して生活できるよう、日々の介護を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が継続しているため、地域とのつながりは持ちにくい。訪問診療や訪問看護、福祉美容師などは継続し、つながりを維持している。	1階には喫茶スペースがあり、こだわりの調度品を配置し、家族は勿論、地域住民も気さくに利用でき、利用者との交流の場となっていたが、コロナ禍以降これまでの交流ができない状況にある。そのような中、利用者にとっては、2階から学校に通う子ども達の様子を眺めることが楽しみの一つとなっている。事業所の様子をカラー写真で紹介する「やまぼうし通信」を定期的に発行し、コンビニや地域に機会あるごとに配布している。さらに、ホームページの更新を月に3回行うなど、日常生活が多くの方の目に触れるよう情報発信に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様に、直接的な関りは難しい。しかし、やまぼうし通信を月に一度発行し、情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面開催を一度行っている。	自治会長、地域包括支援センター、地域の知見者代表、商店街代表、利用者家族がメンバーとなっている。 コロナ禍にあるため、今年度は書面により1回開催し、コロナ感染予防の実際、職場研修のあり方、転倒防止及び転倒防止のための柔軟体操の取り組み等について報告している。	コロナ禍にあり対面開催が難しい状況にあるが、事業所の運営状況を関係者により理解してもらおう上でも、書面開催を含め規定に定める2か月に1回以上の開催を期待します。なお、非常にきめ細かな介護を実践されているので、その取り組み状況を委員の方々に紹介することにより、事業所への理解も更に深まるものと思われれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	円滑な介護保険の更新申請や必要な調査に可能な限り協力している。	法人全体の事務部門が窓口となり随時連絡をとって、いる。事業所としては、市からの調査依頼等に対応している。要介護認定申請についても、随時市と連絡を取り合って進めている。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会の開催を通して、具体的な事例を取り上げ、意見交換を行っている。	身体拘束委員会は、施設長、職員2人の計3人により構成され、3カ月に1回委員会を開催し会議録は職員全員で共有している。具体的な事例を取り上げた研修を開催しており、研修欠席者には資料提供し職員全員が情報共有して日頃の介護に生かせるようにしている。スピーチロックがあった場合には、その都度相互に注意喚起するよう努めている。利用者の安全確保のため、家族への説明を行った上で、4人の利用者が人感センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して、虐待を取り上げ、具体的な事例を学び、現場の支援に活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に該当するようなケースは扱っていない。必要に応じて、勉強会を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を取ってもらい、納得が得られた上でサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に係る直接的な意見はないが、コロナ禍での入居者との面会については問い合わせが多い。ガラス越し面会を基本として、可能な限り対応するように心がけている。	コロナ禍以降、家族からは利用者との面会に関する問い合わせが多く、現在は1階でガラス越しでの面会としている。また利用者一人一人の様子のカラー写真に職員のコメントを添え、家族に利用者の日頃の様子を知らせている。なお、職員全員が利用者一人一人の状況をきめ細かに個人記録表に記入し、職員同士の情報共有に努めている。日常生活を掲載した「やまぼうし通信」やホームページの定期的な更新等、家族への情報発信にも積極的に取り組んでいる。	利用者の日頃の状況などを「やまぼうし通信」として発行するとともに、利用者一人一人にコメントを加え家族に送付する等、きめ細かな対応を行っており、家族からも好評である。今後とも継続して取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	幹部会や各種ミーティングを行い、職員から検討が必要な事柄や情報の共有を行えるようにしている。	法人内各事業所が出席する週1回の幹部会議では、日頃の業務内容、運営方法等について意見交換を行っている。また代表理事による年1回の個別面談は職員からの意見要望を直接聞く機会としており、その際に出された意見をもとに具体的な業務改善に繋がった例もある。職員研修は、職員からの要望をもとに2、3カ月に1回内部研修を実施している。今年度はコロナ禍のため外部講師を招いたり外部研修への参加は難しいことから、工夫しながら内部研修を開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を増やす努力は行っているが、住宅街にある施設のため、なかなか職員が増えず、研修の機会が少なくなっている。しかし、資格等の取得を取るためのシフト調整など柔軟に対応できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ということもあり、積極的な交流は控えている。しかし、制度などの変更に伴い、情報共有が必要と感じた時には、同業者間で情報共有する時間を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期は、本人の不安な部分を重点的に傾聴し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居の時にケアマネージャーが家族と面談を行い、今抱えている不安や要望を聞き、関係づくりに努めている。		

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者とケアマネージャーが家族との面談や関係機関からの情報を整理し、本人の状態を正確に把握し、入居を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今の身体能力や体力に配慮し、可能なことを行ってもらっている。洗濯物のたたみ方やテーブル吹きなど。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあるが、可能限り面会などの問い合わせがあった場合は、ガラス越し面会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みに人などの面会も行っていきたいが、コロナ禍のため、まだ行っていない。訪問診療や訪問看護、福祉美容師は継続して行っている。	コロナ禍にあり、家族との外出やお墓参りなどができない状況にあるが、訪問診療医師、訪問看護師、さらには福祉美容師との交流は、利用者にとって事業所以外の人と接する貴重な機会になっている。また、法人所有のやまぼうし農園に出掛け、自然の中で行う収穫作業は利用者の憩いのひと時になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今、現在は利用者全員でテーブルを囲む形をとっている。その時々利用者同士の関係性を見ながら、席順を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった場合は、その内容に応じて対応している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中ら、本人の思いや意思をくみ取り、意思の伝達が困難な場合は、本人の気持ちに寄り添って支援するように努めている。	利用者の殆どが意思表示できるため、職員は日頃の何気ない会話からその人の思いをくみ取るようにしている。居室担当制を採っていないことから、職員全員が利用者個々の記録表に動作・思いなどを書き込み、職員全員で情報共有し日頃の介護に生かしている。	
----	-----	--	---	--	--

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からだけでなく、家族や関係機関からの情報も考慮し、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の性格や心身の状態を正確に把握し、参加できるレクリエーションや座席の位置などを工夫している。また、心身の状態に変化があるときには居室の変更も検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが作成した支援計画を現場と共有し、週に一度程度のペースで、その内容について現場の職員と情報共有する時間を設けている。	入居時の家族、利用者との面談などをもとにケアマネージャーがケアプランの原案を作成し、職員間で情報共有している。毎週1回開催されるケア会議でケアマネージャーを中心に全職員による意見交換を行い、医師の意見も踏まえながら、6カ月に1回見直している。また必要があれば随時見直しを行っている。作成したケアプランは、家族に郵送又は来所の際に直接説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設独自の個人ごとの記録用紙をもちいて、心情の変化などを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍であり、積極的な動きは控えている。家族から要望があったときには検討を行うつもりである。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事も相次いで中止となり、参加する機会が減っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月2回の訪問診療を受けている。また、かかりつけ医の専門外の通院が必要な場合は、施設側でも対応できるように支援している。	入居時にかかりつけ医について確認し、ほとんどの利用者は事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療、週1回の看護師の訪問、随時お願いしている訪問歯科診療、訪問薬剤師等の関係医療機関と連携し、利用者の健康管理を行っている。診療結果についても随時家族へ情報提供を行うとともに、職員間で情報共有している。	協力医療機関、訪問看護ステーション、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師との連携も図り、日頃から利用者の健康管理に努められており、今後も継続して対応されることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通常の記録には看護情報も記載している。訪問看護には専用の記録用紙を設けて、必要な情報をやり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	各病院の医療連携室の相談員と連絡を取りながら、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、早めに主治医と相談し、今後の方針を決めて支援していく。	入居契約時に、重症化した場合の対応や看取りについて、事業所の対応方針を説明し同意を得ている。本人の生活のしやすさを第一に考え、重度化の兆候が表れたころから家族や主治医と相談し、家族も了解の上で本人に適した医療等施設へと繋げていけるよう支援している。開所当時は看取りも経験したが現在は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの使い方など動画を参考にしながら勉強会を行い、必要に応じて訪問看護や看護職から適切な指導を受けるようにしている。		

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練と防災マニュアルを参考にしながら、有事の際の動きを身につけていくようにしている。	ハザードマップで浸水・土砂崩れ等の区域指定はない。年2回の火災を想定した避難訓練では、特に2階から1階への避難を想定した訓練を行っている。これまでも、夜間の避難訓練のあり方が課題となっていたため、今年は夜間の応援体制の連絡網を作成して訓練を行った。事業所は災害時近隣住民の避難受け入れも可能であることから、その旨を地域住民にPRしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の進行に伴い、様々な機能の低下が見られるが、人格を尊重し、丁寧な対応を心掛けている。	利用者一人一人の思いを尊重し、その人がゆったりとした気持ちで生活できるよう、職員はそっと見守るようにしている。また利用者同士の人間関係にも配慮しながら、必要に応じ食堂の席を替える等、きめ細かに対応している。排泄を失敗した場合には、自尊心を傷つけないよう声かけに十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は様々な言動をするが肯定的にとらえて、否定せず、利用者の気持ちに寄り添い、可能な限り自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢な利用者も増えてきて、利用者の中でもできることに大きなばらつきが出てきている。また、体力的にも大きな違いがあり、個人のペースを尊重して生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの衣類の入れ替えなどを家族から支援してもらい、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在の利用者は高齢の方が多く、体力的に厨房に立つことが難しくなっている。また、法人でメインの厨房があり、コスト削減のため一括調理を行っているため、おやつ作りなどを一緒に行うようにしている。	食事は隣接する法人のデイサービスで一括調理している。盛り付けは職員が行い、利用者は可能な範囲でテーブル拭き等を行っている。9人中2人の利用者は食事介助を必要としている。職員が工夫して準備する誕生会、敬老会、年越し等の行事食も利用者の楽しみの一つである。また、ホットケーキ、お好み焼き、団子などのおやつ作りを月1、2回行い、利用者は下準備を手伝うなど、和気あいあいとした雰囲気が、日常生活に潤いを与えている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量や好みを把握し、個人ごとに調整を行っている。嚥下状態や歯の状態も把握し、トロミや刻み具合を現場で調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず行い、定期的に訪問歯科に来院してもらい診てもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中だけでなく夜間もポータブルトイレは使用せず、可能な限りトイレでの排泄ができるように支援している。排泄の記録も取りながら、誘導のタイミング等に活かしている。	入居以降排泄レベルが改善された利用者もあり、現在は全員リハビリパンツを使用している。居室にはポータブルトイレは置かずに、夜間もトイレ誘導を行っている。排泄チェック表や利用者のもぞもぞする等の行動の特徴を職員全員がよく把握し、きめ細かな介護を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士の作った献立を参考にし、バランスの良い食事を心掛けている。車椅子の方も多くなってきているので、日常的に軽体操を取り入れながら運動不足になりにくいように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本とし、体調やその時の心身の状態に合わせて、曜日の変更や入浴者の入れ替えを行いながら、柔軟に対応している。	個浴により月曜日・木曜日の週2回を入浴日とし、利用者の体調を見ながら対応している。入浴は利用者と職員の貴重なコミュニケーションの場であり、その時の何気ない会話・思いを個人表に記載し、職員間で共有している。また皮下出血の有無等全身観察した結果を職員間で共有するとともに、看護師に情報提供をしている。殆どの利用者の介助は見守り程度である。安全面に配慮し、1人の利用者がバスボードを利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や年齢を考慮し、起床時間や活動時間を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導の下、施設で適切に管理し、服薬支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内でも季節を感じてもらえるように、室内装飾を季節ごとに変更している。その作業も利用者と一緒に楽しみながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で積極的な外出支援は控えている。施設内の利用者と職員だけで車でのドライブや自社の畑作業と一緒に出かけたりしている。	これまでは、近所のスーパーに買い物に行ったり散歩に出かける等、利用者の状況に応じて外出の機会を設けていたが、コロナ禍で一人一人の希望にそった外出はまだ実現出来ていない。そのため、この秋には、紅葉見物を予定し、また、法人所有のやまぼうし農園に出かけ収穫する等、日常生活に変化を持たせるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物支援は控えている。コロナの感染状況を見ながら、地元のスーパーに買い物に行く予定である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙などに特に制限を設けていない。利用者の高齢化と認知機能の低下が進み、ガラス越し面会や電話でのやり取りで、本人が家族のことを認知できなくなるケースが何件かあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の空間は過度な装飾を行わず、落ち着いた雰囲気になっている。利用者の個室は自分の好きなものを持ってきてもらい部屋作りをしてもらっている。逆に物が多くて、必要以上にこだわってしまう方もいるので、別で衣類を保管するケースもある。	社是の「整理・整頓・清掃」の理念のもとに生活感のある共有空間づくりを目指し、過度な装飾を行わないようにしている。食堂の壁面の一部には利用者と職員による季節感あふれる手作りの切り絵などを飾り、全体に落ち着いた雰囲気となるよう工夫している。共有空間の清掃は職員が行うが、可能な範囲で利用者も一緒に行うようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは基本的に開放している。食事などの提供する時間以外は自由に利用してもらっている。フリーのテーブル席も用意し、その時々々の心身の状態に合わせて利用している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居時、家族と部屋作りを一緒に行っている。家 族には入居後も必要に応じて、物の入れ替えや 追加などの対応も行ってもらっている。	居室には壁掛けテレビ、電動ベッド、クローゼッ ト、エアコン、パネルヒーターを備えている。居室 入り口ドアの一部を透明ガラスにし、その下半分 はプライバシー確保のため目隠しているが、上半 分は安全確保のため外から中が見えるようにし ている。入居の際には、利用者と家族が一緒に 荷物の整理を行い、衣替えの時期には家族の協 力を得て入れ替えを行っている。居室清掃は原 則利用者本人が行うとしているが、ほとんどは職 員が中心になって清掃している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人一人の力を活かすため、それぞ れの利用者の心身の状態に応じて、歩行器や車 椅子を利用し、人感センサーを置いて見守りつ つ、施設内を自由に移動してもらっている。		